

好きなこと、苦手なことを認め合い、 個に応じた学びを深める

通信制高校の授業



「怒り」をコントロールするための心理トレーニング「アンガーマネジメント」のワークショップ。カードゲームを通して、怒りの経験を語り合い、自己理解や他者理解につなげる。

自分の興味・関心を踏まえながら、教師や支援員と相談して学ぶ内容を生徒自身で決める。一斉授業の代わりに、ネット授業を視聴する。成績評価は、ペーパーテストだけではなく、学習成果物（ポートフォリオ）などを通じて多面的に行われる。



私が訪問しました

群馬県立高崎東高校
高橋真人

たかはし・まさと



◎教職歴16年。同校に赴任して2年目。数学科担当。少人数での学び合い、学び直しに力を入れた小規模校勤務を経て現任校へ。これまでの指導経験を土台に、生徒が自己肯定感を高めながら、それぞれの希望進路実現のために、意欲的に学習に取り組めるような支援のあり方を日々模索している。

群馬県立高崎東高校

全日制／普通科／共学／1学年約200人／2019年度入試合格実績（現役のみ）：国立大は、弘前大、群馬大、埼玉大、東京外国語大などに17人が合格。私立大は、獨協大、芝浦工業大、東京農業大、法政大、立正大などに延べ110人が合格。

私が案内しました

内閣府認定特区高等学校
明蓬館高校
日野公三

ひの・こうぞう



◎明蓬館高校理事長・校長。2000年に国内初のインターネットを使った通信制高校を開校。NPO日本ホームスクール支援協会理事長、NPOソーシャル・ビジネス・ネットワーク理事、新しい学校の会理事などを務める。著書に『発達障害の子どもの進路と多様な可能性』（WAVE出版）。

内閣府認定特区高等学校明蓬館高校

全国広域通信制高校である明蓬館高校は、SNEC（スペシャルニーズ・エデュケーションセンター）と呼ばれるサポートセンターを全国に設置。SNECでは、発達障害の支援スキルを持った支援員と臨床心理士などの心理職が相談員として常駐し、各教科の教員とともに生徒の支援にあたる。

日野 明達館高校のSNEC（スペシャルニーズ・エデュケーションセンター）には、得意・不得意の凸凹が大きいなど、発達上の特性を持つ生徒が多く在籍しています。発達障害の生徒は、「自分の努力が足りないから、ほかの人にできることができない」と考える傾向にあります。しかし、発達障害は、本人の努力不足や保護者の育て方が原因で起きるものではありません。また、どの生徒も、それぞれの特性に応じた学習環境が整えられれば、豊かな学びを実現することができます。

高橋 個別学習用のブースの様子を見ましたが、支援員の先生に質問しながら、科学的なテーマの探究学習に取り組む生徒、高度な数学の問題を黙々と解く生徒など、各自の学習に取り組んでいます。

日野 時間割は、生徒が教師や支援員と相談して作ります。不登校を経験した生徒には、好きな学習、得意な学習に安心して取り組むことで、学びへの意欲や自己肯定感を取り戻させることが大切だと考えています。そして、困った時には、すぐに仲間や教師にヘルプサインが出るようになることを目指しています。

臆せずに先生に質問をしたり、生徒同士で教え合ったり、人とのかわりを大切にする生徒の姿が印象的でした



コミュニケーションで苦労してきた生徒だからこそ、人との接し方に対して関心を持つ生徒は多いです



高橋 選択授業として行われた「アンガーマネジメント」のワークショップは、自分や他者を理解することを通じて、社会で自立する力を養う時間でしたね。生徒の1人が、「中学生の時に、周りの大人に自分のことを分かってもらえず、イライラして椅子を投げってしまったことがあった。その時はスッキリしたけれど、今は、それでスッキリした自分の感覚に怖さを感じる。その時の自分は壊れていたような感じだった」と深く反省していたことに驚きました。



日野 聴覚が過敏で大勢の生徒が集まる教室に入れなかったり、視覚的な処理が苦手な教室の掲示物に気を取られたりしたことがきっかけで、不登校になった生徒が本校に入学してきます。本校に登校できるようになるまでに何か月もかかる生徒もいますが、安心できる環境をつくってあげれば、どの生徒も必ず自分の学びたいことを見つけ、前に進んでいきます。料理に興味があったある生徒は、生物では食中毒、日本史では日本料理の起源を学習のテーマとし、意欲的に学んだ結果、管理栄養士を目指して大学に進学しました。子どもたちのセルフティーマネットとして「未来の自分が好きになれる学校」であり続けたいと思います。

今日の学びを
自校の指導につなぐ
生徒一人ひとりが
安心して学べる学校に
ついて考え続けたい



発達上の特性を持った生徒の支援は、全日制の高校においても重要なテーマです。しかし、発達障害の生徒とどのように向き合えばよいのか、その理解はまだ十分ではありません。私も、クラス目標として「安心のできる集団」を掲げることがあります。日野先生の学校と同じことを自校ですることとは難しいかもしれませんが、それでも、一人ひとりの生徒が安心できる人間関係の中で、自分の興味・関心を追究し、各教科への学びにつなげ、深めていくような指導のあり方を考えたいと思いました。



思考力は高いが、考えたことを文章化することが苦手など、生徒の特性は多様だ。教師が生徒の話を丁寧に聞きながら、生徒が自分の考えをまとめることを支援する。特性に応じた学習環境が、一人ひとりに豊かで深い学びをもたらす。